

## 学科・専攻の概要

### 1. 教育計画

学期（二期制）	登校日数・長期休み								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期：4月1日～9月30日</li> <li>・後期：10月1日～3月31日</li> </ul>	登校日数：177日～198日 夏期：7月23日～8月31日 冬期：12月19日～1月6日 学期末：3月31日								
成績評価の基準	進級・卒業要件								
①平成29年度までの入学生 優：100～80 良：79～70 可：69～60 不可：59～0 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <tr> <td style="font-size: 2em;">}</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em;">}</td> <td>不合格</td> </tr> </table> ②平成30年度以降の入学生 秀：100～90 優：89～80 良：79～70 可：69～60 不可：59～0 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <tr> <td style="font-size: 2em;">}</td> <td>合格</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em;">}</td> <td>不合格</td> </tr> </table> ・成績の分布状況については、履修科目の点数（0～100点）の平均に基づいて順位付けを行い、半期毎に通知する成績通知書に対象学科における「学年順位」を記載しており、学生は自身の成績が下位4分の1に入っていないかを把握できるようにしている	}	合格	}	不合格	}	合格	}	不合格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要出席日数の9割以上出席していること</li> <li>・すべての必修科目（選択必修科目も含む）に合格していること</li> </ul>
}	合格								
}	不合格								
}	合格								
}	不合格								

### 2. 取得実績のある資格

団体	資格名
経済産業省	情報処理安全確保支援士試験 (旧試験:情報セキュリティスペシャリスト試験)
経済産業省	ネットワークスペシャリスト試験
経済産業省	データベーススペシャリスト試験
経済産業省	応用情報技術者試験
経済産業省	基本情報技術者試験
経済産業省	情報セキュリティマネジメント試験
経済産業省	ITパスポート試験

マイクロソフト	マイクロソフト認定プロフェッショナル (MCP)
マイクロソフト	マイクロソフトテクノロジーアソシエイト (MTA)
マイクロソフト	マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS)
日本オラクル	オラクルマスター
日本オラクル	Oracle 認定 Java プログラマ
シスコシステムズ	シスコ技術者認定 (CCNA)
アドビシステムズ	アドビ認定アソシエイト (ACA)
SEA/J	SEA/J 情報セキュリティ技術認定
NTT コミュニケーションズ	インターネット検定 (ドットコムマスター)
CompTIA	CompTIA IT Fundamentals
CompTIA	CompTIA Network+
画像情報教育振興協会	CG クリエイター検定
画像情報教育振興協会	CG エンジニア検定
画像情報教育振興協会	Web デザイナー検定
画像情報教育振興協会	画像処理エンジニア検定
画像情報教育振興協会	マルチメディア検定
日本医療情報学会	医療情報技師能力検定
日本医療情報学会	医療情報基礎知識検定
技能認定振興協会	医療事務管理士技能認定
技能認定振興協会	ホスピタルコンシェルジュ検定
医療情報安全管理監査人協会	医療情報システム監査人試験
職業教育・キャリア教育財団	情報検定
職業教育・キャリア教育財団	ビジネス能力検定ジョブパス
実務技能検定協会	ビジネス実務マナー検定
実務技能検定協会	サービス接客検定
日本商工会議所	販売士検定
日本商工会議所	日商簿記検定

### 3. 学科・専攻とカリキュラム

#### ①情報システム専門科

<p>学科の目的 特徴</p>		<p>コンピュータの基礎から高度な専門知識・技術までを修得するとともに、システムの設計・アプリケーションソフトの開発に必要な関連知識や情報セキュリティ技術を身につけ、システムに関する幅広い知識・技術と、柔軟に対応できる思考能力を持つ、情報社会に欠くことのできないエンジニアを育成する。</p> <p>特に、2年次からの専攻選択により、情報システム専攻では高度なシステム開発ができるシステムエンジニアやセキュリティエンジニアに、AIシステム専攻では AI・IoT・ビッグデータなどを扱う先端 IT 人材になるための実践的な知識と技術を学習する。</p>				
<p>修業年限</p>	<p>総定員数</p>	<p>専門士</p>		<p>高度専門士</p>		
<p>3年(昼)</p>	<p>180名</p>	<p>平成14年文部科学大臣告示第26号</p>		<p>—</p>		
<p>卒業に必要な 総授業時間数</p>		<p>講義科目</p>	<p>演習科目</p>	<p>実習科目</p>		
<p>3,310時間</p>		<p>1,770時間</p>	<p>260時間</p>	<p>1,280時間</p>		
<p>実施科目 (抜粋)</p>		<p>1年</p>	<p>ITの職業と情報倫理、基礎理論、ハードウェア、ソフトウェア、アルゴリズム1、アルゴリズム2、JAVA、ネットワークとセキュリティ、システム開発の基礎、データ構造とプログラミング、ビジネスアプリケーション、ビジネスソフト活用、データベースの基礎、データベース応用、コミュニケーションスキル、ネットワーク応用1、情報セキュリティ技術、ITストラテジとマネジメント、アプリケーション開発技術1、情報検定対策、国家試験対策1</p>			
		<p>2年</p>	<p>セキュリティ応用、セキュリティ発展、Linux、HTMLとCSS、JavaScript、Webアプリケーション構築、オラクルSQL、アプリケーション開発技術2、オブジェクト指向プログラミング、ヒューマンスキル、Androidアプリケーション開発、AIの活用と開発手法、Python1、ヒューマンインタフェース論、国家試験対策2B、就職対策</p>			
		<p>3年</p>	<p>企画と提案、テストと導入・移行、ビジネスマナーと文書技法、Visual C#入門、ネットワーク構築演習、プロジェクトマネジメント、ネットワーク応用2、システム構築総合演習、AIプログラミング、Python2、DB構築プロジェクト(選択必修1-1)、Web制作プロジェクト(選択必修1-2)、国家試験対策3A、卒業研究</p>			
<p>目標資格</p>		<p>情報処理安全確保支援士試験、データベーススペシャリスト、ネットワークスペシャリスト、応用情報技術者、基本情報技術者、情報セキュリティマネジメント、マイクロソフトテクノロジーアソシエイト(MTA)、Python 3 エンジニア認定基礎試験、オラクルマスター、Oracle 認定 Java プログラマ、SEA/J 情報セキュリティ技術認定、情報検定</p>				

②情報システム科

学科の目的 特徴		コンピュータの基礎から高度な専門知識・技術までを修得するとともに、システムの設計・アプリケーションソフトの開発に必要な関連知識や情報セキュリティ技術を身につけ、システムに関する幅広い知識・技術と、柔軟に対応できる思考能力を持つ、情報社会に欠くことのできないエンジニアを育成する。			
修業年限	総定員数	専門士		高度専門士	
2年(昼)	80名	平成14年文部科学大臣告示第26号		—	
卒業に必要な 総授業時間数		講義科目	演習科目	実習科目	
2,190時間		1,200時間	260時間	730時間	
実施科目 (抜粋)		1年	ITの職業と情報倫理、基礎理論、ハードウェア、ソフトウェア、アルゴリズム1、アルゴリズム2、JAVA、ネットワークとセキュリティ、システム開発の基礎、データ構造とプログラミング、ビジネスソフト活用、データベースの基礎、データベース応用、コミュニケーションスキル、ネットワーク応用1、情報セキュリティ技術、ITストラテジとマネジメント、アプリケーション開発技術1、情報検定対策、国家試験対策1、就職対策		
		2年	セキュリティ応用、Linux、HTMLとCSS、JavaScript、Webアプリケーション構築、オラクルSQL、オブジェクト指向プログラミング、アプリケーション開発技術2、Androidアプリケーション開発、ヒューマンインタフェース論、ヒューマンスキル、ビジネスマナーと文書技法、国家試験対策2A、卒業研究		
目標資格		応用情報技術者、基本情報技術者、情報セキュリティマネジメント、ITパスポート、オラクルマスター、Oracle 認定 Java プログラマ、SEA/J 情報セキュリティ技術認定、情報検定			

③マルチメディア専門科

<p>学科の目的 特徴</p>		<p>情報処理に必要なコンピュータに関する基礎知識や技術を身につけた上で、コンピュータ上でのデザインを基礎から学び、CG制作やWebデザイン、ホームページ制作などのマルチメディアシステムが構築できるクリエイターを育成する。 特に、3年次にWeb構築総合演習を学習し、動的で見栄えのあるWebシステムを構築していく。</p>				
<p>修業年限</p>	<p>総定員数</p>	<p>専門士</p>		<p>高度専門士</p>		
<p>3年(昼)</p>	<p>72名</p>	<p>平成15年文部科学大臣告示第14号</p>		<p>—</p>		
<p>卒業に必要な 総授業時間数</p>		<p>講義科目</p>	<p>演習科目</p>	<p>実習科目</p>		
<p>3,310時間</p>		<p>1,690時間</p>	<p>180時間</p>	<p>1,440時間</p>		
<p>実施科目 (抜粋)</p>		<p>1年</p>	<p>ITの職業と情報倫理、ハードウェア、ソフトウェア、アルゴリズム、データベースの基礎、データ構造とプログラミング、システム開発の基礎、ITストラテジとマネジメント、基礎理論、ネットワークとセキュリティ、CGリテラシー1、CGリテラシー2、ポートフォリオ作成、アプリケーション開発技術1、ビジネスソフト活用、デザイン実践、デザイン理論、キャラクター描画、CG概論、JAVA、ネットワーク応用1、コミュニケーションスキル、CGMMベーシック対策、国家試験対策1</p>			
		<p>2年</p>	<p>セキュリティ応用、Linux、デジタルサウンド、マルチメディア演習1、アニメーション技法、オブジェクト指向プログラミング、Webデザイン実習1、Webデザイン実習2、創作活動1、創作活動2、ゲームプランニング、ビジネスマナーと文書技法、Webアプリケーション構築、ヒューマンスキル、CGMMエキスパート対策、ACA対策、国家試験対策2B、就職対策</p>			
		<p>3年</p>	<p>プロジェクトマネジメント、情報セキュリティ技術、ゲームアルゴリズム、ゲームプログラミング、Web構築総合演習、AIの活用と開発手法、マルチメディア演習2、サーバ構築演習、ヒューマンインタフェース論、Visual C#入門、国家試験対策3A、卒業研究</p>			
<p>目標資格</p>		<p>応用情報技術者、基本情報技術者、ITパスポート、アドビ認定アソシエイト(ACA)、CGクリエイター検定、CGエンジニア検定、Webデザイナー検定、画像処理エンジニア検定、マルチメディア検定</p>				

④マルチメディア科

学科の目的 特徴		情報処理に必要なコンピュータに関する基礎知識や技術を身につけた上で、コンピュータ上でのデザインを基礎から学び、CG制作やWebデザイン、ホームページ制作などのマルチメディアシステムが構築できるエンジニアを育成する。			
修業年限	総定員数	専門士		高度専門士	
2年(昼)	48名	平成14年文部科学大臣告示第19号		—	
卒業に必要な 総授業時間数		講義科目	演習科目	実習科目	
2,190時間		1,090時間	180時間	920時間	
実施科目 (抜粋)		1年	ITの職業と情報倫理、ハードウェア、ソフトウェア、アルゴリズム、データベースの基礎、データ構造とプログラミング、システム開発の基礎、ITストラテジとマネジメント、ネットワークとセキュリティ、基礎理論、CGリテラシー1、CGリテラシー2、ポートフォリオ作成、アプリケーション開発技術1、ビジネスソフト活用、デザイン実践、デザイン理論、キャラクター描画、CG概論、JAVA、コミュニケーションスキル、CGMMベーシック対策、国家試験対策1、就職対策		
		2年	セキュリティ応用、Linux、デジタルサウンド、マルチメディア演習、アニメーション技法、オブジェクト指向プログラミング、ビジネスマナーと文書技法、Webデザイン実習1、Webデザイン実習2、創作活動1、創作活動2、ヒューマンスキル、CGMMエキスパート対策、ACA対策、国家試験対策2A、卒業研究		
目標資格		基本情報技術者、ITパスポート、アドビ認定アソシエイト(ACA)、CGクリエイター検定、CGエンジニア検定、Webデザイナー検定、画像処理エンジニア検定、マルチメディア検定			

⑤大学併修科

<p>学科の目的 特徴</p>		<p>専攻共通カリキュラムにより、コンピュータの基礎から高度な専門知識・技術までを修得するとともに、広い教養と企業経営の関連知識を有し、情報戦略計画の策定にトップリーダー的思考で参加できる「経営」情報化人材を育成する。</p> <p>加えて、3年次からの専攻選択により、情報システム専攻では経営戦略を担うセキュリティやネットワークに強いシステムエンジニアを、AIシステム専攻(2022年度開講)では経営情報とIT技術から最適なAIシステムを開発するAIエンジニアを、情報メディア専攻ではマルチメディア技術とシステム開発技術を兼ね備えたスペシャリストを、医療情報システム専攻では医療関係のIT化を支える医療情報技師や医療系システムエンジニアを育成する。</p>				
<p>修業年限</p>	<p>総定員数</p>	<p>専門士</p>		<p>高度専門士</p>		
<p>4年(昼)</p>	<p>320名</p>	<p>—</p>		<p>平成17年文部科学大臣告示第170号</p>		
<p>卒業に必要な 総授業時間数</p>		<p>専攻</p>	<p>講義科目</p>	<p>演習科目</p>	<p>実習科目</p>	
<p>3,760時間</p>		<p>専攻共通カリキュラム</p>		<p>2,380時間</p>	<p>120時間</p>	
		<p>3・4年次専攻カリキュラム</p>				
		<p>情報システム専攻</p>		<p>120時間</p>	<p>60時間</p>	<p>300時間</p>
		<p>情報メディア専攻</p>		<p>90時間</p>	<p>0時間</p>	<p>390時間</p>
		<p>医療情報システム専攻</p>		<p>240時間</p>	<p>60時間</p>	<p>180時間</p>
		<p>AIシステム専攻</p>		<p>(2022年度開講)</p>		
<p>実施科目 (抜粋)</p>		<p>1年</p>	<p>ITの職業と情報倫理、ITストラテジとマネジメント、基礎理論、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークとセキュリティ、オペレーティングシステム、ビジネスソフト活用、簿記会計1、アルゴリズムとデータ構造1、データベースの基礎、C言語、基礎数学、データベースシステム、コンピュータサイエンス入門、コミュニケーション概論、確率統計、国家試験対策1R</p>			
		<p>2年</p>	<p>JAVA、Linux、ネットワーク応用1、アルゴリズムとデータ構造2、オラクルSQL、情報システム学概論1、情報システム学概論2、会計学1、e-ビジネス総論、オペレーティングシステム2、商法入門、画像システム、ネットワークシステム、経営科学、国家試験対策2B</p>			
		<p>3年</p>	<p>知的所有権論、ソフトウェア工学1、ソフトウェア工学2、コンピュータネットワーク、Androidアプリケーション開発、経営情報システム、電子工学概論、ビジネスマナーと文書技法、オブジェクト指向プログラミング(選択必須3-1)、AIの活用と開発手法(選択必須3-1)、ヒューマンインタフェース論(選択必須3-1)、Python(選択必須3-1)、情報セキュリティ講座1(選択必須3-1)、システムデザイン(選択必須3-1)、オブジェクト指向プログラミング(選択必須3-2)、AIの活用と開発手法(選択必須3-2)、デザイン理論(選択必須3-2)、CGリテラシー1(選択必須3-2)、CGリテラシー2(選択必須3-2)、CGMM検定対策(選択必須3-</p>			

		2)、デザイン実践(選択必須3-2)、オブジェクト指向プログラミング(選択必須3-3)、情報セキュリティ講座1(選択必須3-3)、システムデザイン(選択必須3-3)、医療情報システム(選択必須3-3)、医学・医療(選択必須3-3)、医療情報技師対策(選択必須3-3)、国家試験対策3B、就職対策
	4年	テストと導入・移行、Webアプリケーション構築、ネットワーク構築演習(選択必修4-1)、AIプログラミング(選択必修4-1)、アニメーション技法(選択必修4-2)、ゲームプログラミング(選択必修4-2)、医療情報システム構築演習(選択必修4-3)、医療事務(選択必修4-3)、医療情報管理ソフト演習(選択必修4-3)、DB構築プロジェクト(選択必修5-1)、Web制作プロジェクト(選択必修5-2)、プロジェクトマネジメント、システム構築総合演習、卒業論文指導、国家試験対策4、卒業研究
目標資格	<p>情報処理安全確保支援士、データベーススペシャリスト、ネットワークスペシャリスト、応用情報技術者、基本情報技術者、ITパスポート、オラクルマスター、Oracle 認定 Java プログラマ、SEA/J 情報セキュリティ技術認定、CG クリエイター検定、CG エンジニア検定、Web デザイナー検定、画像処理エンジニア検定、マルチメディア検定、医療情報技師能力検定、医療情報基礎知識件手、情報検定、日商簿記検定</p> <p>※教職課程履修者：高等学校教諭一種免許状(情報・商業)</p>	



#### 4. 就職率、卒業後の進路

就職率	100%	※令和2年3月卒業生実績
<p>主な就職先</p>	<p>アイエックス・ナレッジ(株)  (株)イーエムエス新潟  (株)インターネットイニシアティブ(IIJ)  (株)インテックソリューションパワー [TISインテックグループ]  宇宙技術開発(株) [eDCグループ]  エスアイエス・テクノサービス(株) [さくら情報システムグループ]  (株)NS・コンピュータサービス [日本精機グループ]  (株)エヌ・シー・エス  (株)エヌ・テイ・エス [BSNアイネットグループ]  (株)カーネル・ソフト・エンジニアリング [カーネルグループ]  (株)クエスト  (株)クリップス [楽天グループ]  サイバーコム(株) [富士ソフトグループ]  CTCシステムマネジメント(株) [伊藤忠テクノソリューションズグループ]  (株)JR東日本情報システム [JR東日本グループ]  (株)システムシンク  セントラルソフト(株)  第四コンピューターサービス(株) [第四銀行グループ]  TISシステムサービス(株) [TISインテックグループ]  TDCソフト(株)  デジタル・インフォメーション・テクノロジー(株)  電子開発学園 [eDCグループ]  東京コンピューターサービス(株) [TCSグループ]  トッパン・フォームズ・オペレーション(株)  (株)新潟フジカラー  日本システム開発(株)  (株)NEXCOシステムズ [NEXCOグループ]  (株)ヴァインクス [富士ソフトグループ]  (株)東日本技術研究所  (株)福田組 (社内SE)  (株)ミロク情報サービス  (株)ユニソフト  など</p>	